

正社員の有効求人倍率 初の1倍超え

幅広い業種で人手不足 企業は正社員の求人を増やす

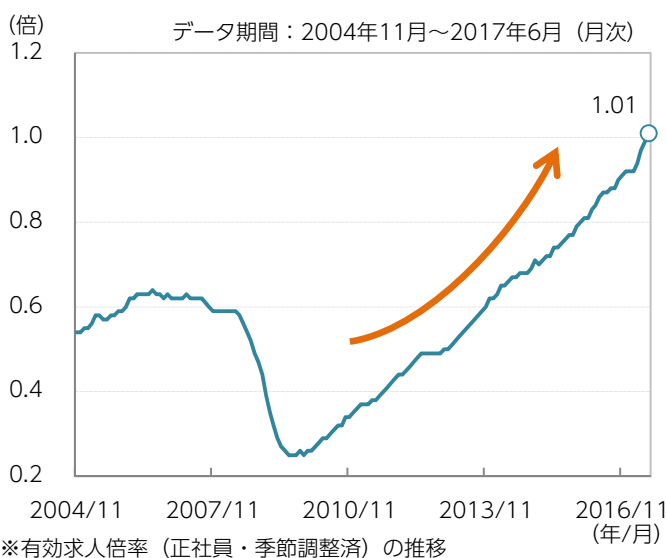
- 6月の正社員の有効求人倍率（季節調整値）は前月より0.02ポイント高い1.01倍となった。
- 幅広い業種で人手不足が起こっており、各企業は長期で人を雇おうと正社員の求人を増やしている。
- 正社員の獲得競争が激しくなり、近年、企業は賃金水準を高めざるを得なくなっている。

厚生労働省が7月28日に発表した6月の正社員の有効求人倍率（季節調整値）は前月より0.02ポイント高い1.01倍となりました（図表1）。パートなどの非正規社員の採用で目立つ人手不足が正社員にも広がりつつあるようです。1倍を超えて求人が求職を上回るのは2004年の調査開始以来初めてとなり、企業の人手不足感が一段と鮮明になりました。主婦や高齢者の非正規雇用が中心だった雇用改善が、賃金水準の高い正社員にも広がったことで、賃金上昇圧力が高まる可能性もあるとみられます。

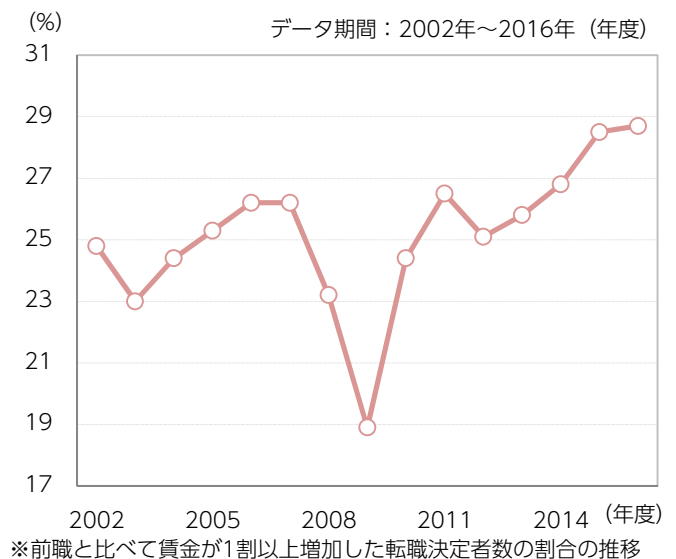
正社員の新規求人数は前年同月より8.7%増加し、パートタイム労働者など非正規社員も含めた求人数の伸びよりも大きくなりました。幅広い業種で人手不足が起こり、各企業は長期で人を雇おうと正社員の求人を増やしています。現在、パートタイムを除く常用雇用を求める求職者は115万人であり、3年間で28万人減少しています。このように一部の統計からは、「正社員になろう」と思う人が増えない面もみられます。「短時間勤務で転勤もない」という理由から自ら非正規社員の立場を選択し、正社員になるのを避ける空気もあるようです。

正社員の獲得競争が激しくなり、近年、企業は賃金水準を高めざるを得なくなっています（図表2）。「前職と比べて賃金が1割以上増えた転職者」は2016年度時点で転職者全体の28.7%となっています。転職者の賃上げにより正社員の給与も押し上げられれば、消費拡大や物価押し上げにつながるという面もある一方で、深刻な人手不足の継続は企業の成長を阻害してしまうという面もあります。企業が先行きの成長に悲観的になれば、かえって賃金・物価上昇を抑制してしまう可能性も見込まれます。

図表1：正社員の有効求人倍率が初の1倍超え



図表2：正社員獲得のため賃金を高めざるを得ない



出所：図表1は厚生労働省、図表2はリクルートキャリアのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会